

**矢作川総合水系環境整備事業
(再評価)
報告資料**

**国土交通省 中部地方整備局
豊橋河川事務所**

目 次

1. はじめに	1
2. 事業概要	2
3. 計画内容と事業の投資効果	
(1) 河口部自然再生	3
(2) 大門水辺整備	4
(3) 白浜水辺整備	5
4. 評価の視点	
(1) 費用対効果分析	6
(2) 事業の進捗の見込みの視点	7
(3) コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点	7
5. 県への意見聴取結果	7
6. 対応方針（案）	7
7. 流域委員会開催概要	8

1. はじめに

今回、事業再評価を実施する理由

- 社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業であることから、事業再評価を実施する（事業期間の延伸）
 - 「国土交通省所管公共事業の再評価実施要領」の第3 1 (5)「社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業」に該当

流域委員会と事業評価監視委員会との関係について

- 河川事業、ダム事業については、河川整備計画策定後、計画内容の点検のために学識経験者等から構成される委員会等が設置されている場合は、事業評価監視委員会に代えて当該委員会で審議するものとする
 - 「国土交通省所管公共事業の再評価実施要領」第6の6
1 0月3 0日流域委員会における審議の結果

2. 事業概要

【事業の目的】

(水辺整備事業)

- 関係機関と連携し、レクリエーション活動や憩い交流の場としてさらなる利活用の推進を図るため、水辺環境の整備を行う。

(自然再生事業)

- 良好な自然環境の保全を図りつつ、失われるなどした環境の再生を図る。

【事業の概要】

- 事業区間：矢作川（愛知県）
- 事業期間：平成15年度～令和7年度
- 全体事業費：約36億円
- 整備内容：計3カ所

- 【継続】 自然再生 1箇所
水辺整備 1箇所
- 【完了】 水辺整備 1箇所

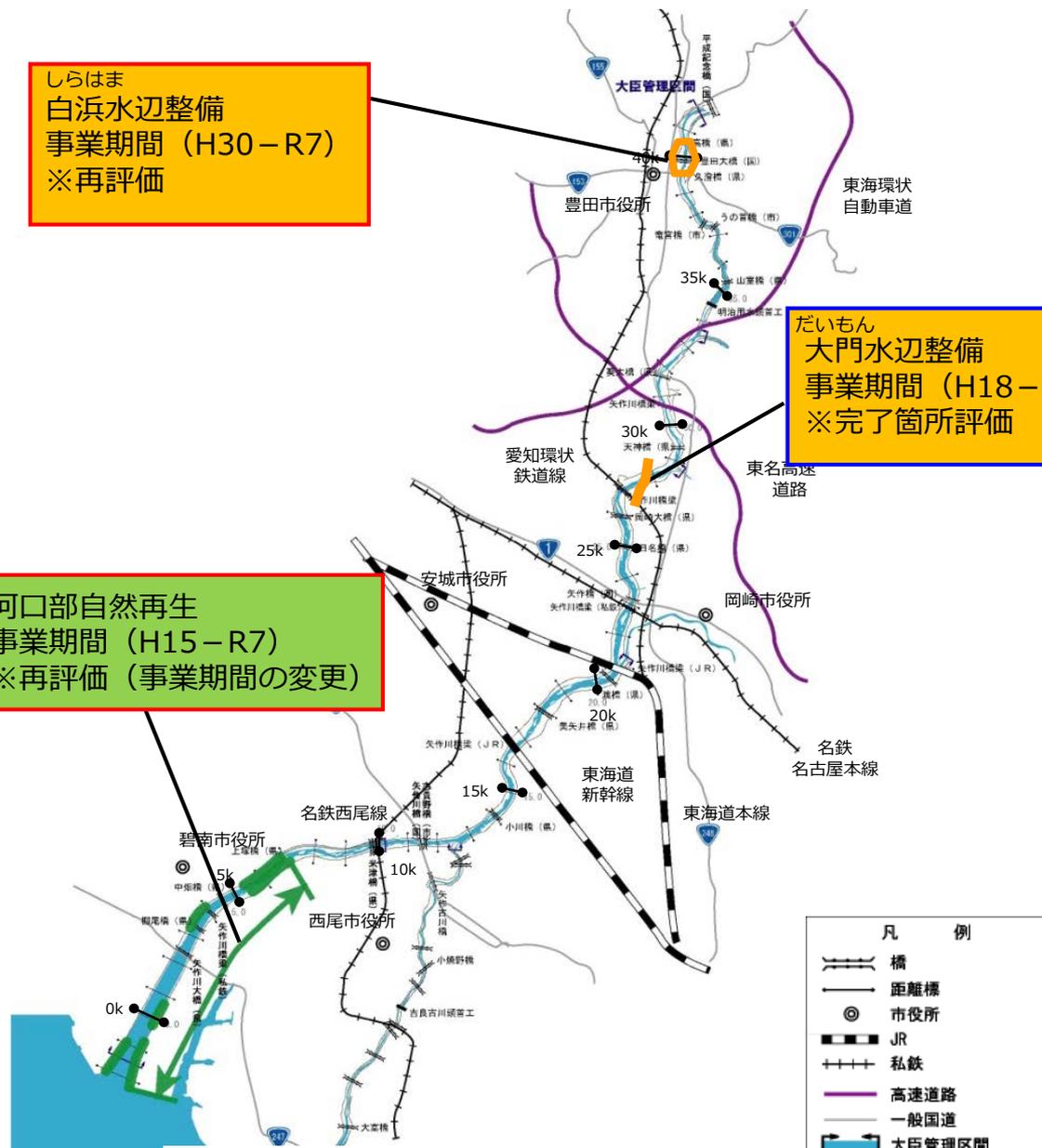
- の事業は、事業継続中
- の事業は、完了

	凡例
	水辺整備
	自然再生

しらはま
白浜水辺整備
事業期間 (H30-R7)
※再評価

河口部自然再生
事業期間 (H15-R7)
※再評価 (事業期間の変更)

だいもん
大門水辺整備
事業期間 (H18-R1)
※完了箇所評価



実施箇所

3. 計画内容と事業の投資効果 (1) 河口部自然再生

整備の必要性

・干潟やヨシ原が少なくなり、シギ・チドリ類をはじめとした豊かな生物の生息環境が減少。喪失した生物の多様性を再生するため、干潟・ヨシ原の再生を行う。



ヤマトシジミ コメツキガニ 稚貝

整備内容

取り組み前（干潟）



窪地にヘドロがたまるなど生物がすみにくい環境となった。

取り組み前（ヨシ原）



河床低下により水位が下がった水際は、オギや外来植物であるセイタカアワダチソウが生える環境となった。

取り組み後（干潟）



砂を投入して干潟を造成することにより、シギ・チドリ類などの鳥類、アサリ、シジミ等の貝類、コメツキガニなどのカニ類がすみやすい環境となる。

取り組み後（ヨシ原）



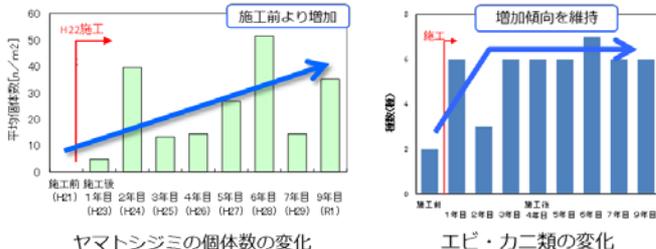
掘削により地盤を下げて水際～河川敷まで連続した環境とすることでヨシが生えやすくなり、オオヨシキリ等の生物がすみやすい環境となる。

事業の投資効果

・多様な生物の生息・生育場が広がることにより生息する生物種が増加傾向を示し、多様な生態系が再生されてきている。

干潟・ヨシ原を利用する生物の増加

干潟・ヨシ原を利用するヤマトシジミやカニ類等の個体数が増加している。



環境学習・自然体験の場の創出

地域住民、大学と連携したヨシ植えを実施しており、矢作川での環境学習・自然体験の場として利用されることも期待される。



事業の進捗状況

進捗率は、令和2年度末事業費ベースで約39%
 全体事業費：1,626百万円
 実施済み：631百万円
 残事業費：995百万円（税込）

【事業期間の延伸】

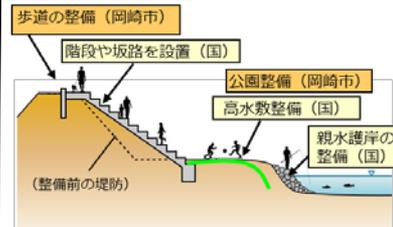
・干潟・ヨシ原の施工箇所は、出水や潮汐・風波による安定性や堆積・侵食、ヨシの活着・生育状況をモニタリングし専門家委員会の指導助言のもと施工方法を検討しながら順次施工を行ってきたことから、事業期間に不足が生じた。
 ・これまでの知見により、効果的な施工が可能となったことから事業期間を令和2年度から令和7年度まで延伸し、事業効果を発現させる。なお、今後の施工にあたっては、モニタリングと検証を継続し効率的に事業効果を発現させるため、状況に応じて順応的に計画を見直す。

3. 計画内容と事業の投資効果 (2) 大門水辺整備

整備の必要性

・大門地区は、周辺に学校・住宅地を控えており、親水の必要性が高いエリアである。自然環境と空間確保を目指し、水とふれあいを目的に公園整備等を行った。

整備内容



取り組み前



取り組み後



- 国**
- ・坂路整備(2箇所)
 - ・高水敷整備(1,000m)
 - ・階段整備(240m)
 - ・親水護岸整備(700m)
- 岡崎市**
- ・公園整備



取り組み前



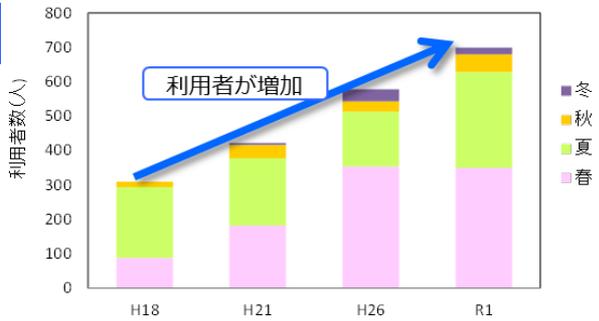
取り組み後



事業の投資効果

- ・整備されたオープンスペースが、様々なスポーツやレクリエーション、散策等に利用されており、整備後は、水辺空間の利用者数が増加している。
- ・良好な景観や水辺に親しみやすい環境となり、川とのふれあいの場となっている。

利用者数の増加



※出典) 河川水辺の国勢調査 空間利用実態調査より集計 (調査7日間の合計人数)
利用者数の変化 (27~28k左岸)



高水敷のオープンスペース等が、近隣の小学校のマラソン大会の場として利用されている。

事業の進捗状況

【完了箇所】
進捗率は、令和2年度末事業費ベースで100%
全体事業費：936百万円 (税込)

3. 計画内容と事業の投資効果 (3) 白浜水辺整備

整備の必要性

- ・ 矢作川白浜地区は豊田市都心から近く、トヨタスタジアム等と一体となった都心の水辺空間であり、矢作川沿いで市民の憩いや賑わいの場となっている。
- ・ 水辺を安全に利用できる緩傾斜堤防、堤防階段等を整備するとともに、高水敷整備、樹木伐採等を行う。

整備内容

取り組み前

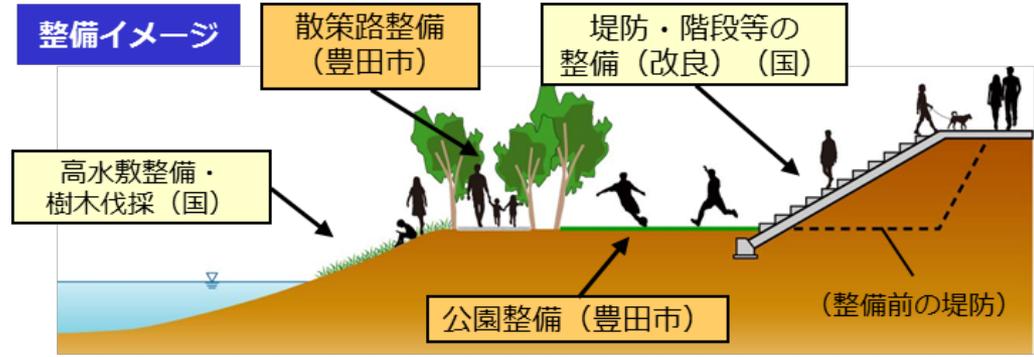


取り組み後



- 国**
- ・ 高水敷整備
 - ・ 堤防整備
 - ・ 階段整備
 - ・ 樹木伐採
- 豊田市**
- ・ 公園整備 (広場、散策路等)

整備イメージ



事業の投資効果

- ・ 自然豊かな矢作川の河川空間の整備と豊田市が進めるまちづくりと連携することにより、良好な空間形成が図られ、まちの活性化が期待される。
- ・ 散策路や河川敷、ゆるやかな水辺が整備され、安心して川に近づけ、散策や休息の場として利用することができる。また、水辺の利活用や環境学習イベントの場などとしても活用が期待される。



事業の進捗状況

進捗率は、令和2年度末事業費ベースで約79%
 全体事業費：1,000百万円
 実施済み：791百万円
 残事業費：209百万円 (税込)

4. 評価の視点

(1) 費用対効果分析

事業全体に要する総費用（C）は45億円、総便益（B）は209億円、費用対便益比（B/C）は4.5となる。 ※1

事項		矢作川総合水系環境整備事業			備考
事業名		自然再生	水辺整備		
		河口部自然再生【継続】	大門水辺整備【完了】	白浜水辺整備【継続】	
計算条件	評価時点	令和2年度	令和2年度	令和2年度	
	整備期間	平成15～令和7年度	平成18～令和元年度	平成30～令和7年度	
	評価対象期間	整備期間+50年間	整備期間+50年間	整備期間+50年間	
	受益範囲	事業箇所周辺4km圏 世帯数：60,001世帯	事業箇所周辺5km圏 世帯数：85,873世帯	事業箇所周辺4km圏 世帯数：77,969世帯	
	年便益算定手法	CVM（郵送アンケート） 回答数：479票 有効回答数：320票	CVM（郵送アンケート） 回答数：425票 有効回答数：216票	CVM（郵送アンケート） 回答数：278票 有効回答数：144票	
	支払意思額 (円/月/世帯)	334円/世帯・月 (4,008円/世帯・年)	257円/世帯・月 (3,084円/世帯・年)	287円/世帯・月 (3,444円/世帯・年)	
B/C算出	総便益（B）	59億円	88億円	62億円	※1 ※2
	年便益	2.4億円/年	2.6億円/年	2.7億円/年	※3
	便益	59億円	88億円	62億円	※2
	残存価値	—	0.1億円	0.5億円	※2
	総費用（C）	18億円	16億円	11億円	※1 ※2
	事業費	17億円	15億円	9.6億円	※2
	維持管理費	0.6億円	1.0億円	1.8億円	※2 ※4
	B/C（箇所別）	3.3 (2.6)	5.5 (4.5)	5.6 (4.1)	※5
	B/C（事業種別）	3.3 (2.6)	5.4 (4.4)		※5 ※6
B/C（水系）	4.5 (3.7)			※5 ※6	

※1：四捨五入の関係で、合計が一致しない場合がある。

※4：必要額の積上げ

※6：（ ）内は前回評価時の数値

※2：割引率4%で現在価値化

※3：WTP×世帯数×12ヶ月

※5：総便益（便益+残存価値）/総費用（事業費+維持管理費）

4. 評価の視点

(2) 事業の進捗の見込みの視点

- ・自然再生は、「矢作川自然再生検討会」で学識者、有識者からの意見を踏まえて進めるとともに、地域住民との協働によるヨシ植えを実施しており、地域と連携して進めている。
- ・白浜水辺整備は、「矢作川河川環境活性化プラン」に基づき、まちと水辺が一体となった魅力ある空間作りの検討を進めている。また、矢作川利用調整協議会等を実施し、地域の意見を取り入れながら、利活用の提案・検討を進めている。

(3) コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

- ・自然再生は、干潟再生の養浜材料として河道掘削やヨシ原再生による掘削土を利用することや、ヨシ原再生において地域協働によるヨシ植えを実施している。
- ・水辺整備は、地元団体と連携した地域協働による樹木伐採・維持管理を実施している。

5. 県への意見聴取結果

(愛知県)

- ・「対応方針（原案）」案に対して異議はありません。
なお、事業の推進あたっては、以下のとおり要望します。
 - ・早期完了を目指して、着実な事業実施をお願いします。
 - ・事業実施にあたっては、一層のコスト縮減など、効率的な事業推進に努められるようお願いいたします。

6. 対応方針（案）

- ・矢作川らしい河川環境の保全・再生や、地域住民の河川利用に関する需要が見込まれ事業の必要性は高いことから、矢作川総合水系環境整備事業を継続する。

7. 令和2年度 矢作川流域委員会における審議

- 矢作川総合水系環境整備事業の再評価の対応方針（原案）について、「令和2年度 第3回 矢作川水系流域委員会」において審議をいただき、了承されました。
- 委員からいただいた主なご意見は、以下のとおりです。

【開催日】 令和2年10月30日（金）

【開催場所】 WEB会議

【開催内容】

- 矢作川水系河川整備計画の進捗状況
- 矢作川総合水系環境整備事業の再評価



主なご意見

- 事業継続とする対応方針（原案）を了承する。
- 環境整備事業の事業評価手法については、より実態を評価したものとなるよう、引き続き工夫をしていてもらいたい。